

福岡県指定有形文化財

ぶそうじえんぎ  
武蔵寺縁起

## 第一幅

縁起とは、社寺の起こりや沿革、  
靈験れいげんなどの言い伝え、あるいはこれ  
を書き記したものをいいます。奈良  
時代後期から寺院の増加につれて縁  
起もふえ、平安時代後期からは絵巻  
物化されていきました。これが縁起  
絵図とよばれるものです。室町時代  
以降、社寺の経済的な基盤が失われ  
はじめると、民衆から寄進を求める  
宣伝手段として縁起や縁起絵図は重  
要な役割を果たすようになっていき  
ました。

全5幅からなる武蔵寺縁起絵図  
は、江戸時代中期（18世紀）に  
描かれたとされています。

また、江戸時代中期以前に定應と  
いう武蔵寺の僧侶によって書かれた  
「椿花山武蔵寺薬師如来縁起」が明  
治期の写本としてあり、縁起絵図と  
ともに武蔵寺伝説を伝えるものとし  
て貴重です。



※紙本著色 画面ヨコ51.8cm  
上下は欠損している。

武蔵寺は「今昔物語集」や「梁塵秘抄」  
にも見える著名な古代寺院である。境内から  
大治元年（1126）銘の経筒も出土しているこ  
とからみて、平安時代後期が武蔵寺の最盛期  
であったと思われる。

この絵図の伽藍がらんは、おそらく当時を偲しのんで  
描かれたものであろう。



現在の武蔵寺（筑紫野市大字武蔵）

